

第79回温泉気候物理医学会・総会・学術集会 身体の治す力・調節する力を高める仕組みに関する研究(1)

－下腿・足部にある仕組みについての仮説－

The mechanism of The physical stimulation, which promotes the resilience and the homeostasis mechanism of our body(1)) -A hypothesis of the mechanism at the lower thighs and the feet

西條一止¹⁾ 森 英俊¹⁾ 羽生一予¹⁾ 森澤建行¹⁾ 渡邊真弓¹⁾
山下和彦²⁾ 中條 洋²⁾ 中村泰治³⁾ 喜田圭一郎³⁾

- 1) 国立大学法人 筑波技術大学
- 2) (学)平成医療学園 宝塚医療大学
- 3) サウンドヒーリング協会

「研究の背景」

演者等は、1991年に副交感神経機能を主体的に高め両自律神経機能が高まって、身体の調節する力・治す力が高まる仕組みを明らかにした(M4)。

「目的」

今回は、足部・下腿にある「身体の治す力・調節する力を高める仕組み」を観察する。

「方法」

実験対象は成人男・女20例である。生体反応の指標は、自律神経機能をMP36(BIOPAC Systems.社製)を用いて瞬時心拍数で行い、立位体前屈で腰部可動域を観察した。10例には椅子坐位で、利き足を他下肢の膝の上に置き足底を実験者が50回叩打した。

別の10例には椅子坐位で、両足底をサウンドヒーリング協会の小型体感音響クッションの上に置き2分間体感音響刺激を行った。刺激前後に立位体前屈を計測し、刺激前後、刺激中の瞬時心拍数を計測した。

「結果と考察」

①足底への体感音響刺激により、刺激中に交感・副交感神経機能を高める反応を10例中8例に観察した。また、刺激前後での立位体前屈による反応は10例中8例に反応が大きくなった。

②足底への叩打刺激により、刺激中に交感神経機能を高める反応を10例中7例に、副交感神経機能が高まる反応が3例に(他の例に抑制はない)観察した。また、刺激前後で立位体前屈による反応は10例中8例は反応が大きくなった。

「結論」

足部への刺激で交感神経が主体となる身体の調節する力・治す力を高める反応の手応えを観察した。